

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 伏木高等学校アクションプラン - 1 (1) -		
重点項目	学習活動（学習指導）	
重点課題	生徒の意欲・能力を引き出す授業と課題を通して、学習習慣の確立を図る。	
現 状	・学習に対して自信が持てず、積極性に欠ける生徒が多く見受けられる。学習習慣が定着しておらず、基礎的な内容の理解が深められていないことが原因と考えられる。わかりやすい授業と適切な課題の提示により、自律的学習への転換を図りたい。 ・わかりやすく、興味をもたせる授業を行うために教員がＩＣＴ機器を用いることは多いが、生徒自身がタブレットを用いる機会は多くはない。プレゼンテーション活動や授業のまとめなどにタブレットを利用し、主体的に取り組む活動を増やしたい。	
達成目標	① 年度当初より「学習時間が３０分以上増えた」生徒の割合	② 教員相互による授業研究を年間３回以上行った教員の割合
	７０％以上	８０％以上
方 策	・スタディサプリやグーグルクラスルームを利用し、朝学習、週末課題などに積極的に取り組めるようにする。 ・面談や学習計画作成を通し、担任や科目担当者から個々の生徒に適した学びの方法を助言する。 ・ＩＣＴ機器を用いた授業や生徒が能動的に考え、学びを深める授業の研究のため、互見授業や教員間で指導法についての研修を行う。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和7年度 伏木高等学校アクションプラン - 1 (2) -		
重点項目	学習活動（国際理解教育）	
重点課題	国際交流活動の推進	
現 状	・国際交流活動に必要な英語の基礎力を身につけるため、授業の他に本校独自のSETプログラム（毎朝５分の英語放送）を行っている。 ・第２外国語として学んでいる、中国語、韓国語、ロシア語を活かし、友好校との交流を促進し、国内・海外研修を充実したものとする。	
達成目標	① SETプログラムに積極的に取り組む生徒の割合。	③ 国際交流活動に積極的に取り組み、充実感を得ている生徒の割合。
	② 第２外国語の学習に積極的に取り組む生徒の割合。	
	それぞれ８０％以上	７０％以上
方 策	・SETプログラムの生徒の積極的な取り組みの促進。 ・語学研修実施の持続可能な取り組み。 ・姉妹校・友好校との関係、及び、ホームステイ継続のための方策。 ・効果的な情報発信への模索。（学校HP・Instagramなど）	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和7年度 伏木高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活（生徒指導、保健衛生）	
重点課題	基本的生活習慣の定着と生徒の主体性を重視したモラル意識の向上 環境美化と健康への意識向上	
現 状	【基本的生活習慣の定着】 基本的生活習慣の定着と、生徒の主体性を重視したモラル意識の向上を目指し、授業、学校行事、部活動など学校生活のあらゆる機会を通して指導する。またSNS等を介した友人間のトラブルが散見される。 【環境美化と健康への意識向上】 環境美化活動への意欲的な参加や取り組みについて生徒の意識は高まっており今後も継続的に活動を行っていききたい。学校生活を健やかに送るため、基本的生活習慣の確立を目指して生活の中で食事、運動、睡眠休養など健康への意識を高めていききたい。	
達成目標	① 自身のモラル意識が高いと評価する生徒の割合 95%以上 ② 所属学年のモラル意識が高いと評価する生徒の割合 80%以上	③ 清掃など環境美化活動へ意欲的に参加したという生徒の増加 ④ 学校生活の中で健康（運動）についての意識が向上したという生徒の増加
方 策	【基本的生活習慣の定着】 - 学校生活調査を年間2回実施し、現状の把握に努め、個人面接やHR、全校・学年集会において生活習慣の改善の啓発に努める。また、SNSによるトラブルや闇バイトの被害に巻き込まれないよう指導する。 【環境美化と健康への意識向上】 - 生徒対象にアンケートを実施し、清掃活動の取り組み状況を把握する。美化週間などの活動を通して、環境美化活動やゴミ捨てマナーの意識付けを図る。 - 食事、運動、睡眠休養など生徒の生活習慣の実態を把握し、健康的な学校生活を送れるよう保健委員会など生徒主体の活動を通して意識の向上に取り組む。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和7年度 伏木高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	進路目標の明確化と進路実現	
現 状	- 自己の適性に応じた進路目標を抱くことができるように、進路に関する情報提供の機会を多く持ち、個々に寄り添った面談を重ねるように努めている。 - 進路目標の早期決定により、各自の課題を明確に把握し、日々の学習に対するモチベーションの向上に努めている。	
達成目標	① 2年次で経験するインターンシップやオープンキャンパスなどに積極的な参加ができた生徒の割合	② 第3学年の進路決定について、満足のいく進路実現ができた生徒の割合
	85%以上	90%以上
方 策	- 進路関係行事、総合的な探究の時間等を利用し、進路意識を高め、早期に進路目標を明確にさせるよう努める。 2年次に行うインターンシップやオープンキャンパスなどへの参加を、進路選択の貴重な体験の場として位置づける。積極的かつ意欲的な参加を通して、具体的な目標へと結びつけることができるようサポートに努める。終了後は、レポート作成やプレゼンテーションを行うことを通して、生徒同士が多くの情報を共有し、互いに刺激し合いながら自己の適性を把握し進路意識の向上を図る。 - 面談を重ねることで、現実を客観的に把握し、将来にむけての課題を明確にさせる。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

重点項目	特別活動（地域交流活動と読書指導）	
重点課題	地域交流活動の活性化と読書教育の充実	
現 状	【地域交流活動の活性化】 本校では地域の方々と関わりながら行うボランティア活動などを数多く実施しており、生徒の成長を育む重要な活動の一つとなっている。広く参加を呼びかけるとともに、積極的に情報発信することで、意欲的に参加する生徒を育てたい。 【読書教育の充実】 本校では、読書体験が少なくその効用や楽しさを経験していない生徒が多い。図書委員会の活動を活発に行い「BOOK TALK」や「図書だより」等の広報活動を通じて、読書に親しむことができる環境を整え、読書の魅力を伝えたい。	
達成目標	① 生徒が地域交流活動に参加して充実感を感じ、意義ある活動と捉える。（事後アンケートで調査）	② 読書活動に積極的に参加できた生徒の割合 75%以上（事後アンケートで調査）
方 策	【地域交流活動の活性化】 地域活動への参加を学年や部活動、委員会といった種々の活動単位ごとに積極的に呼びかけ、例年以上の参加率を目指す。また、地域活動の様子を学校HPやInstagram等で広く発信することで、自己有用感の涵養につなげたい。 【読書教育の充実】 新入生への図書館オリエンテーションと全学年への朝読書を実施する。図書館の読書コーナーの内容や展示の仕方を工夫したり、図書委員会で図書館の利用を促進するための企画や広報活動を行ったりする。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった